

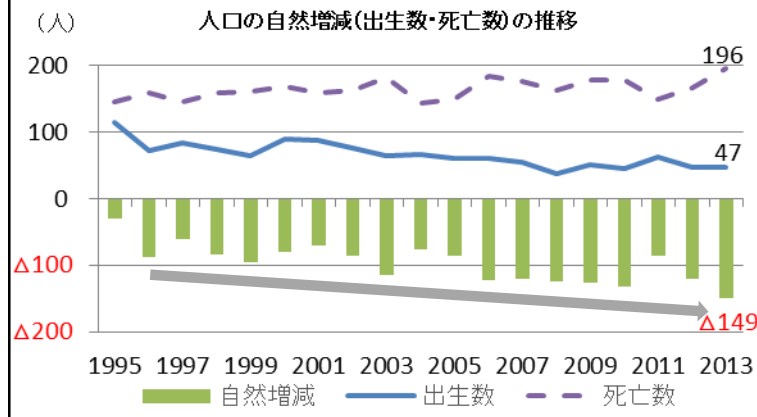
# 五城目町人口ビジョンの概要

## I 人口の現状分析

### 1 人口動向

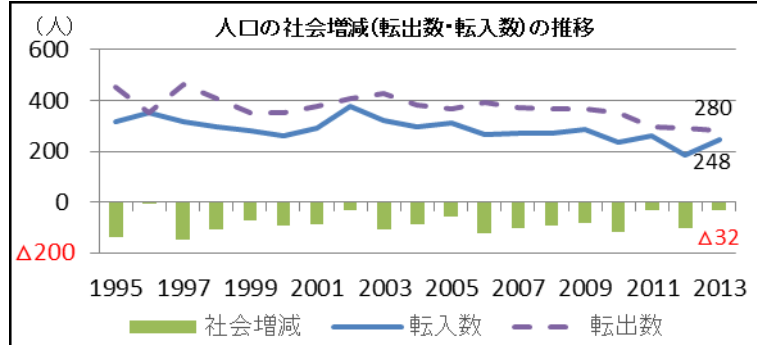
#### (1) 時系列による動向

- 総人口
  - ・ 観測期間の1965年以降、減少傾向が継続し、直近の2010年は10,516人、2015年以降でも減少の見込み
- 年齢3区分別人口
  - ・ 年少人口(0～14歳)、生産年齢人口(15～64歳)ともに1965年以降では減少
  - ・ 老年人口(65歳以上)は増加しているものの、2030年以降は減少の見込み
- 自然増減
  - ・ 1995年以降では、自然減が拡大基調で継続し、2013年には▲149人まで悪化
- 社会増減
  - ・ 1995年以降では、社会減がほぼ一環して継続し、2013年には▲32人

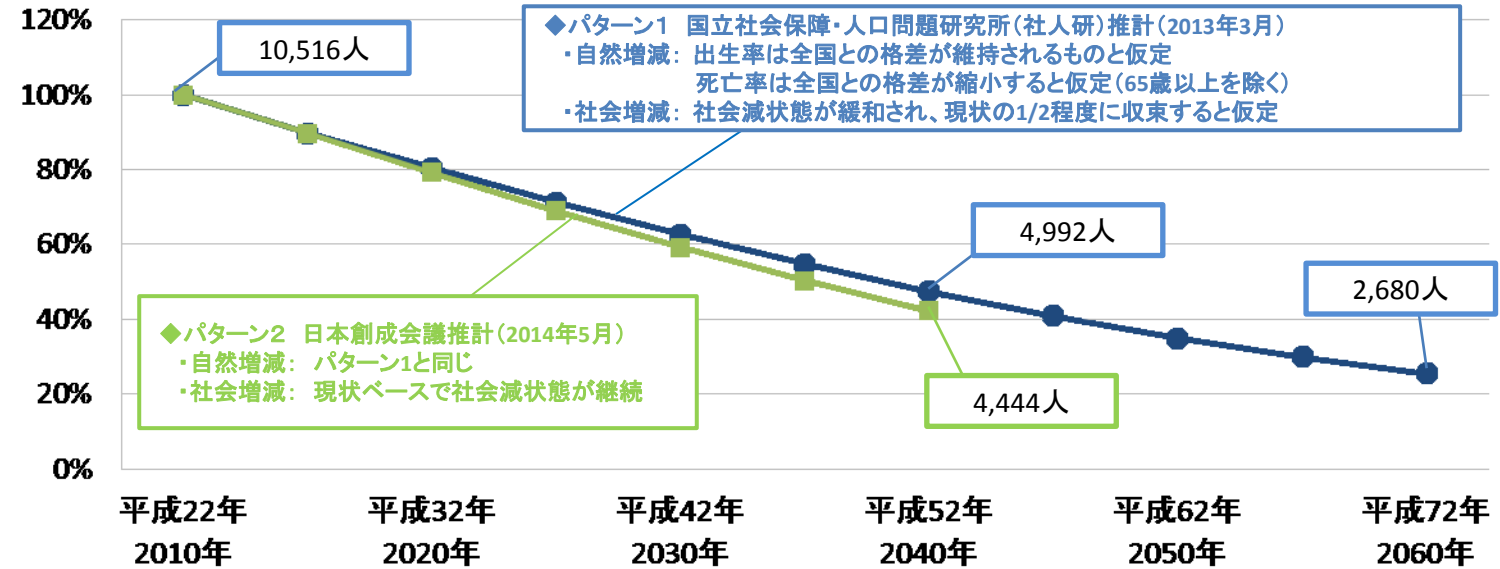


#### (2) 人口動向分析

- 年齢階層別分析
  - ・ 男女とも「15～19歳から20～24歳」の年齢階層で大幅に転出超過
- 町内定着率
  - ・ 2005年まで上昇傾向の後、2010年には低下し、男性が約60%、女性が約55%の水準



### 2 将来人口の推計



#### ○人口推計

- ・ 社人研推計(パターン1)をベースとした2040年の人口は4,992人
- ・ 一方、社人研推計より厳しい推計方法(日本創成会議:パターン2)では、2040年の推計人口は4,444人

#### ○自然増減・社会増減の影響度

- ・ 将来人口に対する自然増減と社会増減の影響の大きさを分析  
 →「自然」要因と「社会」要因の影響度は同程度であるものの、県内の他市町村と比較すると、双方の要因から、より大きな影響を受けやすい特徴

## II 人口の将来展望

### 1 目指すべき将来の方向

#### (1) 現状と課題

- 拡大する「自然減」
  - ・ 若年層の減少・流出と、それに伴う出生率の低下
  - ・ 高齢化が進展し、高齢者が増加したことにより、死亡数が増加
- 続く「社会減」
  - ・ 進学や就職を機に若年層が町外に転出
  - ・ 町内へのUターンは一定割合にとどまる
- 雇用の集中と高齢化
  - ・ 全国平均と比較すると、「農業」「複合サービス」に集中
  - ・ 「農業・林業」「建設業」の従業者が高齢化する一方、「医療・福祉」は、若年・壮年層の雇用を吸収

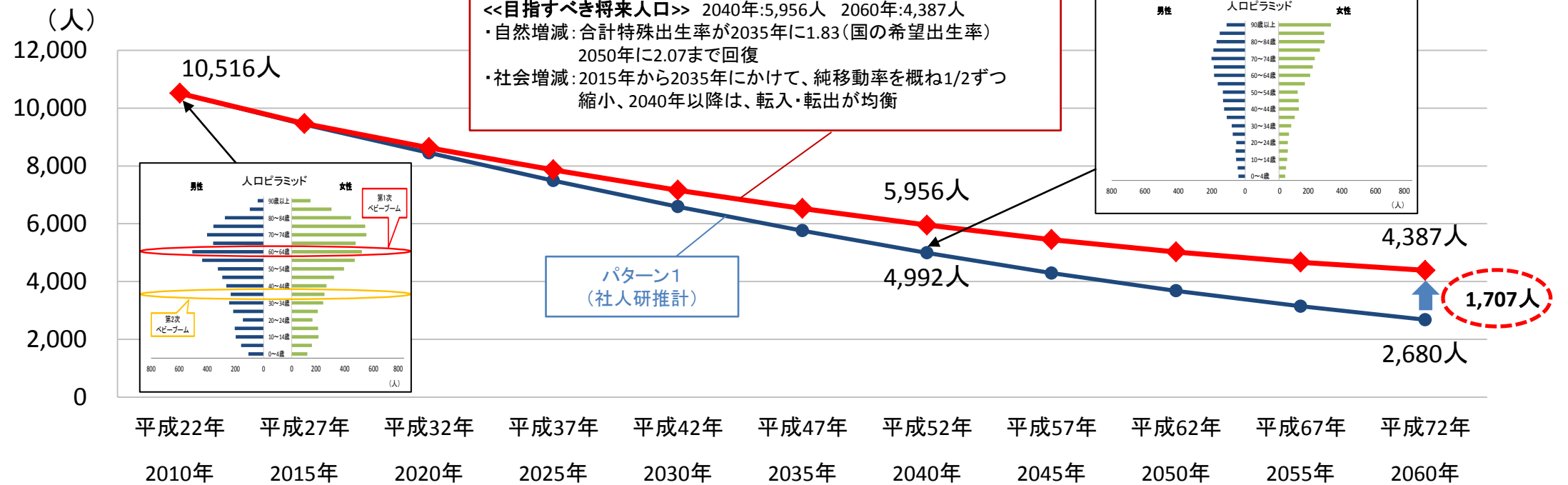
#### (2) 目指すべき将来の方向性

- 社会減の抑制
  - ・ 男女ともに町内定着率を改善するため、雇用を確保
  - ・ 高校・大学進学を機に流出した層のUターンを促進
- 自然減の抑制
  - ・ 出生率の改善のため、出産や子育て支援の充実
- 未来へ継承する地域づくり
  - ・ 人口の転入増加を図りつつ、現在の主要産業における人口構造の若返りを図る施策が必要

現状分析から将来を展望

※合計特殊出生率 一定の期間(1年間)の出生状況に着目し、その年における各年齢(15～49歳)の女性の出生率を合計したもの。 ※人口置換水準: 人口が長期的に増減せず維持される水準。現在の日本では2.07。

### 2 人口の将来展望



#### ○目指すべき将来人口(2040年、2060年)

合計特殊出生率が2035年に1.83(国の希望出生率)、2050年に2.07に回復し、純移動率が2015年から2035年にかけて概ね1/2ずつ縮小した後、2040年以降は、転入・転出が均衡するとした場合、5,956人(2040年)、4,387人(2060年)となる見込み